

## 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

### ○記入方法

#### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

#### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

#### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

#### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームわかば
(ユニット名)	か
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市
記入者名 (管理者)	堤 倫子
記入日	平成 19年 10月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はある。	○	開設前の理念であり、開設して4年が経過した今、事業所の状況や地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を加えるなど理念を考え直してもよいのかもしれないと思う。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員名札の裏に理念を書いたメモを入れており、それぞれに確認し意識して日々の仕事に活かすようにしている。	○	理念の他にも、法人全体で目標を持ち達成しようという意識があり今年度のGH部署目標も理念と近いものである。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に見やすいよう掲示しており、見学や入居の際には詳しく説明するようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	病院の中にあるGHということで、少し独特な雰囲気を持たれている様を感じる。	○	もっと買い物など利用者を連れて行きたいが、商店街は交通も多く違法駐車も多い為に利用者の安全を確保できないなど難しい面もある。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	商店街や近隣の幼稚園、教会の行事などには、参加させてもらっている。	○	行事の際、準備の段階から、なにか担当させてもらえると、もっと交流が深まると思う。

グループホームわかば ユニットか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	GH単独ではないが、病院全体で健康教室などを開催して、健康への関心が高まるよう地域に対して取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価を各自で考えたあと全員で話し合い、ケアの向上にむけて取り組んでいこうとする姿勢がある。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議は、まだ開催したばかりで、まだサービス向上などには実質的には繋がっていないと思う。これから、活発な場作りをしていきたい。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	事業所単独では取り組んでいないが、佐世保市のGH連絡協議会の会員になっており、その代表などが市町村と連携をはかっており、必要なことは連絡網にて情報が伝わるようになっている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修などには、できる限り参加している。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	法人で顧客満足に関する勉強会を開いたり、虐待などの記事が掲載された新聞などはコピーして配布したりして注意を払っている。		

グループホームわかば ユニットか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>一方的な説明で終わらないよう時間をかけて注意しながら説明している。利用料金などの説明は契約前から行うこともあり、その点は不安を和らげ、理解、納得されていると思う。</p>	<p>○</p> <p>時間は設けているが、業務の都合で忙しい時間帯などは十分な説明が出来ない時もあるので不足した分は、きちんと伝えるようにしている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>機会は設けてないが意見箱を設置している。また口頭でも受ける体制はとっており、それらの意見は運営者に報告し解決策をとるようにしている。また日々の生活の中からの会話や姿勢など不満を汲み取るように努めている。</p>	<p>○</p> <p>介護記録とは別に、ささいな事、かんじた事を書くノートを作っており、それを職員間の情報交換として日々のケアに活かしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会の際、暮らしぶりや健康状態を話し、金銭管理については、御小遣い帳を見ていただいたりしている。面会に来られない家族については請求書など送付する時に利用者の近況をかいた手紙と一緒に送付するようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しており何か意見があれば、いつでも受け付ける体制を作っている。運営推進会議を開催した際は家族と職員間で話す機会を設け意見を聞いたりした。そこでの内容は運営に反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見や提案を聞く機会は、いつでもできるような体制を整えており直接、話せるようにはされている。運営者とは十分な時間とれず把握できているかは不透明である。職員間では毎月一回ミーティングを開催している。</p>	<p>○</p> <p>十分な時間、機会を作り意見を反映できるようにしたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>本人のペースを崩さず心地よく毎日を過ごしてもらえるように起床時、就寝時、入浴時間などを考慮した上で勤務時間を設定している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最小限の異動ですむように配慮している。</p>	

グループホームわかば ユニットか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所全体で教育委員会・C・S顧客満足度の勉強会(週1回)また月1回の日本経営藤沢社長の講義があり自己啓発に取り組んでいる。また事業所外での研修にもなるべく参加させている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>佐世保市グループホーム連絡協議会に入会し情報交換を行っている。またケアマネの研修会にも積極的に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個別に相談に応じ大きなストレスにならない内に解決策を共に考えるようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>わかばごころ(理念)の理解の為、全職員に対して共に学ぶ風土を育成している。</p>	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまでは相談員が聞き取りを行い困っている事等、本人自身から、よく聞く機会を作っている。職員は、それに基づき最大限受け止めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受ける際は、これまでの経緯や現在の状況を、ゆっくりと聞くようにし、ここでは、どのような対応が出来るかを話すようにしている。</p>	

グループホームわかば ユニットか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し対応できるようしているが場合によっては併設居宅ケアマネ、SWへも相談し、他のサービス利用も含めた対応が出来るようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近、急な入所が続いていたため、突然のサービス開始になっており、本人が安心、納得できていない事もあった。	○	入居希望者の殆どが、併設病院から入所される事が多く利用者に関する情報は得やすいため、介護に困るような事は、あまりないが、入居の予約があった時から、GHに来てもらえるような支援をしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴の中から、その人の得意分野を知り、それを行ってもらえるような場面作りに配慮している。また、一緒に行うことで共に支えあえる関係を築けるよう留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子を伝え、家族から以前の暮らしぶりなどを聞き情報を交換しながら同じ思いで本人を支えていけるような関係をもちたいと事を伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴、家族構成など家族との情報交換の中から得た思いを受け止めて両者の関係がより良く保てるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院併設ということで、外来よりリハビリに来られている方と一緒に時間にリハビリ室で会えたりするよう気をつけたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が上手くいくよう、情報を共有し、職員が間に入り支援したり、日々の生活の中で利用者から話を聞き、相性が悪い方とはトラブルが起きないように配慮している。		

グループホームわかば ユニットか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ほとんどが、併設病院に入院、退所となられるため、お見舞いに行ったりしている。	○	他事業所に移られた際、職員が休日を利用して遊びに行くことはあるが、利用者が遊びに行ったり、移られた利用者が遊びにみえる事は出来ていないので、そういうことが出来るようにしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際、生活歴やGHでの生活の希望を聞いたり、日々の生活の中から出てくる思いを記録に残し、希望、意向にそえるよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記に同じく、それを個別なケアプランにいかしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	熱形表や記録を活用したり、申し送りを細かく行い把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が家族、本人の希望を聞き、アセスメントを行い、職員間でもカンファレンスを行って、介護計画の作成に役立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期入院による病状悪化や、レベル低下など状態にあわせケアプランの見直し変更を行っている。		

グループホームわかば ユニットか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を認識しており、各利用者の様子がすぐに分かるよう個別に記録をしている。また、それを元に介護計画の立案、実行、見直しに十分に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療、リハビリといった機能を活かし、適切な処置を受けたり、入院した場合には早期退院に向けての支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が、より良く生活ができるように民生委員との話し合いを設けたり、消防による非難訓練を行ったり、施設で行事がある時にはボランティアの参加があったりと地域と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービス事業所との勉強会や研修の際に情報交換を行っている。また、本人の希望にあわせ定期的に出張理美容サービスを利用している。	○	現段階では他事業所を利用することはないが、利用することがある時にスムーズに利用できるよう話し合いの場を多くもっておく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり支援に関する情報交換を行っている。	○	協議する機会を、もっと増やして今まで以上に関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が病院併設ということで、うちのGHを選んで入所されている。同じ建物内にあるため安心して医療を受けられるシステムができている。		



グループホームわかば ユニットか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりの誇りやプライバシーを尊重して、その人その人にあった言葉かけをしている。	○ 法人全体でもコミュニケーション技術のスキルを学んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ささいな事でも本人に選んでもらえるように問いかけたり、その人その人の意見や訴えなどを聞き出来る限りの対応に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務の流れで職員の都合を優先することもあるが、できる限りその人その人のペースを大切にして個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は利用者、家族の方の希望を聞き訪問利用サービスを受けている。又、入浴後など、いつもと違う髪型をアレンジしたり時には化粧をしたりと、おしゃれを楽しんでもらう様になっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食などは、一緒に準備を行っている。また、刺身がきらいな人は煮付けにしたり、好みのものが食べられるよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物に行った際、自分が好きな、おやつ等を買われたりしている。また水分補給には、好みの飲み物を飲んでもらっている。お誕生日にも好きな食べ物を聞きプレゼントしている。	

グループホームわかば ユニットか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄シートに時間帯、量、性状など細かにチェックし、その人その人の排泄パターンをつかみ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが入浴するか、しないか、入浴したい時間など個人の希望にあわせて、入浴してもらっている。また、入浴が楽しみのひとつとなるよう、暖簾を使用するなど工夫している。	○	入浴剤などの使用もし温泉の雰囲気など出していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	「横になりたい」と訴えあれば、夜間の睡眠に支障がないように、その都度対応し、又、個人の顔色、状態などを観察しながら休息をすすめていたりしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野での力を発揮してもらえるような仕事を、お願いして感謝の気持ちを伝えるよう心掛けている。リハビリ参加を勧めたり、ケアプランも含め職員と利用者が一緒に物事に取り組んでいけるよう心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については委任状をもらい管理させてもらっているが、買い物などの際は自分で支払いができるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への買い物などは、利用者と一緒に散歩がてら出掛けたりしている。	○	季節を、もっとたくさん肌で感じてもらえるよう、外出の機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者、家族ともに身体機能的に無理かなあ・・・と思われるようで、なかなか要望がつかめなかったりする。	○	もっと、介護に関する知識、技術を習得し、外出が困難なことではないということを示しながら、要望を聞き出し支援していきたい。

グループホームわかば ユニットか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話の設置があり希望があれば支援している。	○	家族の面会が少ない利用者に声かけして手紙や電話などの支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族によっては訪問日を決めておられるので、その日は利用者も、ある程度身のまわりの事をすませ、ゆっくり過ごせるよう支援している。また家族、利用者、職員で会話の時間をもてるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は職員正しく理解している。	○	玄関には鍵がかかっており、身体拘束をしないケアについては、これから、もっと勉強して取り組んでいかなければと考えている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解はしているが、日中も玄関は施錠している。日中だけでも開錠したいが、日中だからといって、現状の職員数では見守りの強化ができないと思う。	○	入居時に、電子錠については説明し理解をしてもらっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤者が記録係になっており記録の全てをフロアで行っているため、日勤者を中心に早出者、遅出者、夜勤者に状態など報連相している。夜間も、夜勤者がこまめな巡回を行い緊急時のすばやい対応に心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品によって保管場所を考え必要に応じては職員同士、注意を促し利用者の状態にあわせて危険のないように気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定であれば転倒に注意したり、誤嚥の恐れなら食事摂取に注意したりと一人一人に応じ事故を防ぐよう気をつけている。	○	事故が起きた場合は、事故報告書を作成し、それについて検討をして今後の予防に努めている。

グループホームわかば ユニットか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルは把握できており、年に数回、消防からと院内外科のDrより普通救命講習も開かれている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルも作成しており、病院全体で避難訓練も実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の要望にリスクからみそうな時は本人の生活範囲を尊重することと事業所の取り組みなどを説明し理解を得るようにしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックはもちろん、コミュニケーションをとる中で、ちょっとした変化も記録し報告しあい、素早い対応に取り組んでいる。	○	外来メモに、気になる事は記録してNS、Drにも速やかに報告している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートがそれぞれにあり、内容など確認できるようになっている。薬も職員側で管理させてもらい、きちんと服用できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスのとれた献立が作成されている。また、飲み物なども牛乳、ココアなど排便効果のあるものを多く取り入れている。オリゴ糖などの甘味も使用。ケアプラン項目にも体を動かす事も立案している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯洗浄剤なども使用し利用者のレベルに応じて介助を行っている。		

グループホームわかば ユニットか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスのとれた献立が立てられている。又、職員も入居者の、その日の状態に合わせた形態にして摂取しやすいようにしている。食事量も毎日の記録に残している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体で週1ペースで教育委員会を開いており、そこで感染症などについて勉強している。また、病院併設ということで、正しい新しい情報が入ってくるため対応がスムーズにできる。	○	学んだ知識を、いつでも活かせるよう努力していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存には気をつけ、なるべく食事直前に調理するよう心がけている。調理用具などについても乾燥機やハイターなどを使った十分な乾燥と除菌に心がけ、夜勤者が台所の清掃を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は明るく、リビングとつながっているため、利用者、職員の顔がすぐに見え安心感につながっている。玄関前にはプライバシーに配慮したうえで、利用者の写真をつかった表札を掲示しており、来客の方にもわかりやすくなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す為、花を生けたり、壁面構成を行っている。またオープンキッチンになっており、調理の音、匂いなど生活感を感じることができると思う。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳や、ソファを活用して利用者の、その時々々の状態、気持ちにあった過ごし方が出来るよう工夫している。リビングも気のあう利用者同士で活用してもらえよう気をつけている。		

グループホームわかば ユニットか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物の持ち込みに制限はしていない。なるべく、馴染みの物、安心できる物を持ってきてもらえるよう話している。又、本人や家族と相談しカーペットや畳をしくなど居心地よい居室作りに努力している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、起床時に居室など換気を行っている。温度調節にも気をつけている。	○	リビングなど多数で過ごす空間での温度調節は個人の体感温度が違う為、調節に苦労するが、衣服の調整も含め対応していきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりなど利用者の状態に合わせた造りとなっている。	○	日々、検討して利用者の自立、安全が保てる生活にあった、よりよい住環境がつけられるよう努力していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわからない利用者には、入り口に目印をつけ迷うことなく居室に戻れるようにしたり、入浴日の浴室には暖簾をかけたたりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	隣接しているテラスがあり、利用者が植木いじりや、花の観賞ができるようにプランターを高い位置においたり、日々の活動に役立てている。ただ、テラスが狭い為に洗濯物など干した際、活動に危険が生じることもある。	○	洗濯物を干していない時に水遣り、土いじりをしてもらっている。テラスのテーブルセットを活用して、お茶をしたり休息できる機会を増やしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



グループホームわかば ユニットか

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・一人の患者様を母体の法人全体で看取りまでサポートできるシステムの構築がされている。
  - ・法人全体で地球環境問題に取り組んでおり「チーム・マイナス6%」に参加している。
- グループホームでも独自のCO2削減目標を立て実行している。また個人でも「私のチャレンジ宣言」を携帯し取り組んでいる。
- ・日本経営の指導で法人全体で「CS顧客満足度」にてコミュニケーション技術の基本を学習している。
- グループホーム年間目標を表示し利用者本位のサービス提供に取り組んでいる。